オタモイ開発

地質・地形を堪能できる自然公園を目指して

特集

オタモイ開発特別委員会では、昨年8月に第1期開発計画を策定しました。

その後、10月から本年1月にかけて、この第1期計画の事業可能性を評価する調査を行い、一部見直しや変更などを加え、特別委員会としての最終計画案を策定しましたので、その概要を報告します。

■オタモイ開発

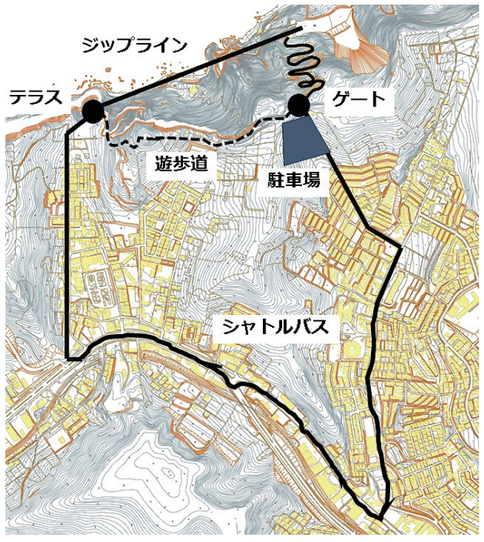
オタモイ開発は国定公園内に展望・休憩所のオタモイテラス(以下テラス)と、案内所の機能を担うオタモイゲート(以下ゲート)を整備し、その間を遊歩道で結ぶ計画となっており、オタモイの自然を楽しんで学ぶことを主要な目的としています。また、オタモイエリアは貴重な地質や地形に恵まれていることから、近年注目されているジオツーリズム(地質学や地形学、景観、岩石と鉱物などの自然資源を対象として行われる観光)を意識した観光資源の開発を通して、観光客の回遊性を高め、長期滞在化など小樽観光の活性化を目指すものになっています。

■開発の全体図

オタモイは海側から見ると、秘境感に溢れた地ですが、陸側には住宅街が近接しています。第1期計画では、ゲートとテラスに隣接して駐車場を整備し、それぞれの施設に車でアクセスできるように考えていました。しかし、特にテラス側には住宅が密集しており、道路も狭く、多くの車が住宅街を行き来することで住民生活に支障を来たす恐れもあることから、最終計画案では、テラス側の駐車場整備をやめ、ゲート側の駐車場のみを整備し、ゲートとテラスはシャトルバスで結ぶことにしました。

また、最終計画案では、テラスと旧オタモイ遊園地跡地を繋ぐジップラインの整備を新たに取り入れました。(図1)

図1 開発の全体図



●オタモイゲートがスタート
➡ 駐車場・案内所を設置

●オタモイテラスへは遊歩道又はシャトルバスを利用
➡ テラスへの一般車両の行き来を防ぐ

●ジップラインで地質・地形の体験
➡ テラスと旧遊園地跡地を繋ぐ

図2 オタモイテラス

■デザインの見直し

第1期計画のテラスは、崖から突き出た大きなガラス床の回廊が特徴的でしたが、より国定公園に求められている景観に溶け込むよう、ゲートとともにデザインと建設費の見直しを行いました。

《オタモイテラス》

崖の先端に跳ねだす一枚の岩舞台のような姿で、訪れる人は森の中に見え隠れするその岩の下に滑り込むように入館します。学習・展示室、カフェ、ショップなどが回廊状に配され、せり出した展望室の足元は断崖が150mの高さで海に落ち込んでいます。建物の屋上は深さ10cm位の水が張られた水盤になっていて、鏡のように空や木々を映し出します。その水盤にはまるで浮島のようにカフェが設けられ、雄大な景色を眺めながらコーヒータイムを楽しむことができます。

図3 オタモイテラス

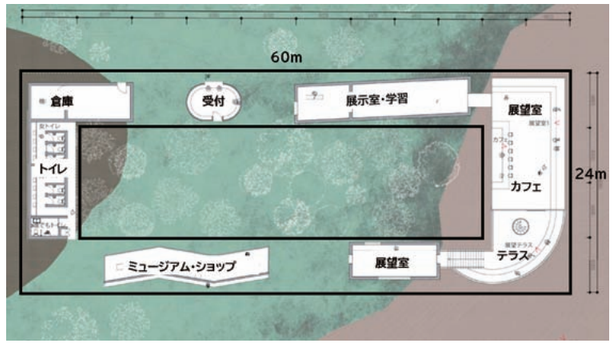


図4 オタモイテラス1階平面図

何度訪れても満足度の高い体験を提供する仕掛けになっており、建設費も以前の7割ほどに縮小できました。(図2、3、4)

《オタモイゲート》

60mにわたる一枚の壁のようにデザインされたゲートは、機能をシャトルバスの待合所を兼ねた案内スペースやトイレなど最低限に絞りました。陸側から見ると、建物自体は壁の後ろに隠れて見えません。まるでアート作品のようなゲートは、オタモイテラスと一体感があり、自然に溶け込むデザイ

図5 オタモイゲート